

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	327100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホームあしたか		
所在地	島根県 八束郡 東出雲町 大字出雲郷490番地 (電話) (0852) 52-6181		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県 松江市 白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年1月4日

【情報提供票より19

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤3人, 常勤換算7.65人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要 (11 月 20 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院 ・ 高木歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道9号線沿いから数メートル入った所にホームはあり、比較的面会に便利である。周囲は閑静で、近くに神社もある。ホームは木造平屋建てで、周囲の環境に馴染んでいる。建物内部も床や柱など茶色で統一され、落ち着いた雰囲気である。管理者・職員は法人、ホームの理念の基に、認知症ケアに前向きに取り組んでいる。職員も笑顔で、入居者もゆったり過ごしている。入居者のペースに合わせる事をホーム長、職員は大事に考えて日々の、ケアにあたっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員間の情報伝達は「記録ノート」や「業務日誌」などで申送り、職員の定期的な会議の開催、個々の入居者の摂取カロリーの把握など、改善に向けた努力がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で取り組み、ホーム長がまとめた。職員全員が自己評価の意義を再確認出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議が今年度から定期的に開催されており、メンバーに地域住民、役場関係者等以外にボランティア、入居者も出席して意見交換している。「案内板」の設置を要望する意見が出たりし、事業所での改善課題に取り上げたりしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヵ月に1回「たより」と共に、個々の入居者の近況報告を行っている。「苦情箱」の設置、又、「苦情相談窓口」を文書に記載し、入所時に説明している。家族が面会時に相談を受けたり意見を聞いたりしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館の要請を受けて、「認知症」の学習会を行ったりしている。しかし、日常的な地域との交流はまだ課題である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のニーズを考えて作られた「草雲会」グループの理念を基に、事業所独自の理念を造り上げている。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は他施設と兼務で、時々ホームを訪れた際、理念に関わる事柄を、ケアを通して職員にアドバイスしている。	○	更に日々のケアの場面や、スタッフ会議などで話し合いを行い職員全員で、引き続き理念の共有、実践に取り組んで頂きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、ボランティアを受け入れたりしているが、日常的な交流は少ない。	○	案内板の設置や玄関まわりの工夫など地域の方が日常的に立ち寄り易い工夫や自治会への加入など地域との連携を更に強める努力が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に配り、1人1人に記入してもらい、ホーム長がまとめた。個々が評価に取り組むことで、評価の意義を再確認した。職員が評価に取り組んで感じた事を、スタッフ会議で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から定例化している。ホームの近況報告、避難訓練などの行事予定を報告したり、参加者からの意見を聞いている。この場で地域から地区の行事への誘いを受けたりしている。議事録を残し、職員も目を通してしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場には適宜ホームの状況報告を行っている。ホームの運営上での相談は今迄行っていない。	○	市町村と、運営推進会議以外にも密に連絡を取り、ホームの地域での役割を共に考える体制作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3カ月に1回「たより」を発行し、個々の利用者の近況報告を行っている。家族が来所時にも近況報告をしている。金銭出納は月1回請求書と共に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を文書に載せており、第三者も入っている。家族が来所時には話を聞き「気づきノート」に記入し、スタッフ会議等で報告、意見交換を行っている。	○	運営推進会議への多数の家族の出席や、家族が意見、苦情を出し易い体制・場面作りが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は今迄職員1人である。職員のローテーションも考えているが、現在は出来るだけ移動を抑えたいと考えている。「研修」として同法人の職員が入った際なども、現職員と共に挨拶、行動することで、利用者の混乱はない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「採用時研修」「継続研修」を随時行い、県内で催される研修にも交替で参加できる様、勤務保障も行っている。職員の資格取得も勧め、事業所でのバックアップも行っている。研修内容は文書で報告されている。	○	更に職員の段階に応じた研修計画、年間計画を作って頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、研修等で他のホームと交流し、情報交換を行っている。	○	サービスの質の向上に向け、現在の交流をもとにネットワーク作りを検討して頂きたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今迄に入居後のトラブルはない。かえって、ホーム入居後落ち着いたという利用者もいる。	○	今迄トラブルはないが、利用者が「環境が変わる」事を視野に入れ、今後「体験入居」など個々のケースに沿った対応も考慮して頂きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、片付け、ゴミ捨て、洗濯物たたみ等、本人に出来そうな事を見守りながら行っている。入居者の体験談を聞き、又職員が愚痴を聞いてもらうなど、利用者から励まされたり学ぶ機会が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は本人、家族と話し合い、本人の想いも日々聞く様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人、家族の想いを聞いて作成している。	○	ホームが今後行いたい事として、本人、家族関係者を交えたカンファレンスを考えている。是非取り組んで頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月に1回定期的に見直されている。入居者の状況に応じての見直しもされている。	○	更に状況に変化がなくても、月1回の計画の見直しを行って頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今迄にケースはないが、ホームでの家族の宿泊、定期的な受診の送迎など、要望に応じる体制がある。	○	今後、デイサービスやショートステイなども検討していただきたい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際、家族からその報告を受け内容についてケース記録に記載している。内服薬のファイル(効能、副作用)も綴じてある。日々の相談は、協力機関の医師と特老、デイサービスの看護師と行っている。	○	職員が、夜間での入居者の健康管理、緊急時の対応に不安を持っているので医療機関との更なる連携が望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の契約で、ホーム入居の契約と共に、特老入所の契約も行っている。主治医と相談しながら、重度化した場合、特老入所等に移行している。	○	家族、地域のニーズをもとに、入居時から入居者、家族、主治医と話し合いを重ね、重度化した場合のより良い方向性を考えるホームの対応、住み慣れたホームでの選択肢も含め見直しを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時に、言葉かけが「上から」というトーンになる事がある。個人情報の取り扱いには留意している。	○	管理者・職員間で「気付きノート」やスタッフ会議で意見交換し、改善に努力して頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースに合わせる様、声掛けのタイミング等、配慮している。しかし、本人のペースに合わせる事で、入居者の生活にメリハリがない状況になる事も危惧している。	○	入居者の生活暦、楽しみ事などを把握しながら、個々のケアを検討して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日ある食材で工夫しながら、日々献立を決め、一緒に出来る入居者と共に準備、片付けをしている。パン、ご飯の代替え、粥、きざみ食等、入居者の状態・好みに合わせ、対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制を整えている。入浴拒否のある方には、「仲の良い人と一緒に」「家族と一緒に」、又「職員と一緒に」という事などで、入浴に誘えるケースもあった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力、喜び事を引き出す努力をしている。書道、生け花など、ボランティアが講師になって入居者の特技が生かされ、楽しみ事になっている。歌を歌ったり、入居者の戦争体験を聞くなど、楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者が少なく、人的体制もあり、日常の外出機会は少ない。	○	「外出」は、入居者にとって「五感の刺激」「地域との関わり」など大切な要素であり、更なる努力を望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	6時～20時まで開鍵している。玄関にセンサーがある。、ベッドのセンサーが3部屋使われていて、入居者が立ち上がる度に鳴る。管理者・職員は鍵をかけることの弊害は理解している。	○	入居者への見守りの工夫、又、地域の人が立ち入り易いホームという点からも、柵の開放を検討して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、消火、通報訓練と共に年2回行われており、消防署との連携もとられている。	○	災害時、地域住民の協力が得られる様、日頃から事業者からの働きかけを検討して頂きたい。備品、食良品・飲料水の備蓄を行って頂きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に主・副食の摂取量が、入居者全員に記入されている。水分摂取も水分摂取の少ない方、摂取が困難な方へはゼリー等で工夫している。居室にペットボトルを置くなど、配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾は全体に少ないが、かえって清潔感のある空間となっている。TV、暦なども家庭的に配置され、畳のスペースで過ごす方もいる。冬には畳みに炬燵が置かれ、そこでくつろぐ入居者も多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物が置かれ、家族にも本人の馴染みの物を持ってきて頂く様依頼したりしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。